
J X F U N E R S

蒼川 悠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

JXFUNERS

【Nコード】

N5064R

【作者名】

蒼川 悠

【あらすじ】

少年の遭遇した、機械体とは

少年と少年

雨の中走る、走り続ける。はっはっ……。息が切れかけて近くの巨朴に倒れ込む。冷たい雨が刺すように軀に凍みていく。

どうしてこんな所車道から離れた森にいるかというと生化義体研究所から逃げた。

体に酷い事をされたわけでも、SF漫画みたくバリバリ機械の体にされたわけではない。

ただ奴に逢うのが怖いの一言だ。

数年前、親父が開発したネオ・クレイミアという鉋物を仕方がないとはいえ事故に遭い瀕死の重傷を負った俺に移植して後は最新のバイオ複製技術で事故前の変わらぬ姿にしてもらった。

しばらく研究所で暮らす事を余儀なくされて三年間ここで過ごした。しかし二十歳を迎え親父から信じられない話を聞く。

「もう一人のお前が偶然出て来た。」と。

確かに研究開発鉋物を俺に使用した事で何かと分離した感覚はあったがまさかもう一人の俺とは「双子兄弟と思ってくればいい」となんで(？)兄弟と思うだって、首を傾げた。

「ネオ・クレイミア鉋物や最新バイオ複製技術についてある程度説明したよな？ 軀が安定するまで試験管のような培養水槽に居た事も」
コクリと頷く俺、

「ちよつと偶発な事が起きてしまつてな……。」「一枚の写真を乗り越し見ろという、俺いやちよつと違う鏡で毎日みる俺ではない、鋭い印象と正反対の優しげな幼い少年がいた。

「鉋物が分離爆発しそうになり人型をとり集束して一人の少年ができた、それがお前だ。」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5064r/>

J X F U N E R S

2011年10月5日23時43分発行